

# Well ウエル おおさか

22  
2010.2

特集

活動しやすい  
環境づくりに向けた  
取り組みについて  
池田市民生委員児童委員協議会

新連載

民生委員・児童委員が  
活動しやすくなるために  
守口市民生委員児童委員協議会

◎イキイキ ハツラツ

民生委員・児童委員さん  
枚方市民生委員児童委員協議会

民児協だより

能勢町民児協／大東市民児協  
大阪狭山市民児協／阪南市民児協



## 表紙の作品と作者

社会福祉法人 ねやのさと福祉会

寝屋川市

〔あすなる障害者作業所〕

木工工房ASUNARO

のみなさん

木の温もりが伝わるようなかわいいパズル。インテリアとしても飾りたくなるこのパズルは、寝屋川市にある社会福祉法人 ねやのさと福祉会 あすなる障害者作業所の「木工工房ASUNARO」の皆さんの手で作られたものです。

あすなる障害者作業所は、昭和56年に開設された知的障害者通所授産施設で、「木工工房ASUNARO」ではパズルやマグネットなどを製作。直売店である「福祉の店 ハートリー」や百貨店のイベントなどで販売しています。平成20年度の大阪府授産製品コンペティションで大阪府社会福祉協議会会長賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

板の研磨やマスキングテープ貼り、組立、接着などの作業は、3つのグループに分かれた工場の通所生が担当。色別に分かれた細かなパーツを接着剤で付着するなど、とても緻密な作業ですが、通所生がひとつひとつ丁寧に行っていました。企画デザインとレーザー加工機による切断は職員が行います。以前は、糸のこで切断していましたが、レーザー加工機の導入により生産性が大きく向上したそうです。



切断前にマスキングテープを板に貼っていきます。密着していないと間からヤニが入るのでしっかりと



通所生の技術力は高く、「職員がやると不良品が出ることもあるので任せています」と後藤さん



それぞれの能力に合わせて自然と役割分担ができたという通所生の皆さん

「作っていても楽しく、使うのも楽しく」と面白さを追求するとともに、ストーリー性のあるパズルづくりを心がけているという、職員の後藤さん。「ストーリーが背景にあると、子どもは見えないところで世界を広げて、楽しく遊ぶことができる。子どもの想像力に働きかけるものを作れたら」と言います。また、取材時はクリスマス前ということもあり、多くの注文に応えるため通所生の皆さんは忙しく作業をされていました。「外部から注文をいただくと通所生たちのモチベーションは高まりますし、責任感もついてきます。自然と通所生同士で声を掛けたり、役割分担するようになるなど仲間意識も生まれてきました」と、パズルづくりを通して通所生も大きく成長しているようです。

6年前からは、東京で開催されているギフトショーに出展し、一般市場に対して積極的に営業活動も行っている「木工工房ASUNARO」。商品を通して通所生が社会とのつながりを深め、成長していく姿がうかがえました。



入口に飾られた製品の数々

【お問い合わせ先】

TEL (072) 821-8400 FAX (072) 821-9255

URL <http://www.neyanosato.com/>

## 編集後記

ホームレスの仕事をつくり自立を応援するビッグイシューの販売希望者の3人に1人は20～30歳代の若者だということです。「働きたくても仕事がない、家もない」大きな問題です。春が近づくにつれて、少しでも明るい話題が増えることを願っています。

Well ウエル おおさか

vol.22  
(通巻56号)

発行日：平成22年2月

発行：大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局：大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyo.or.minkyo/>



この冊子は再生紙を使用しています。

# 活動しやすい 環境づくりに向けた 取り組みについて

大阪府民児協連では「民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりに向けた検討会」を平成20年12月から設置し、欠員問題や活動の多忙さの解消などについて、これまで様々な検討を重ねてきました。今回は、同委員会でも大きな課題として取り上げられている「欠員問題の解消」について池田市民児協の取り組みを通して、考えていきます。



## 推薦準備会の取り組み \*池田市民児協\*

池田市民児協では大阪府の民生委員推薦準備会設置運営要綱に基づき、平成18年12月から民生委員推薦準備会を立ち上げており、本紙17号（平成19年7月1日発行）でも紹介しました。今回は、その後の取り組みや見えてきた課題に対して取材しました。

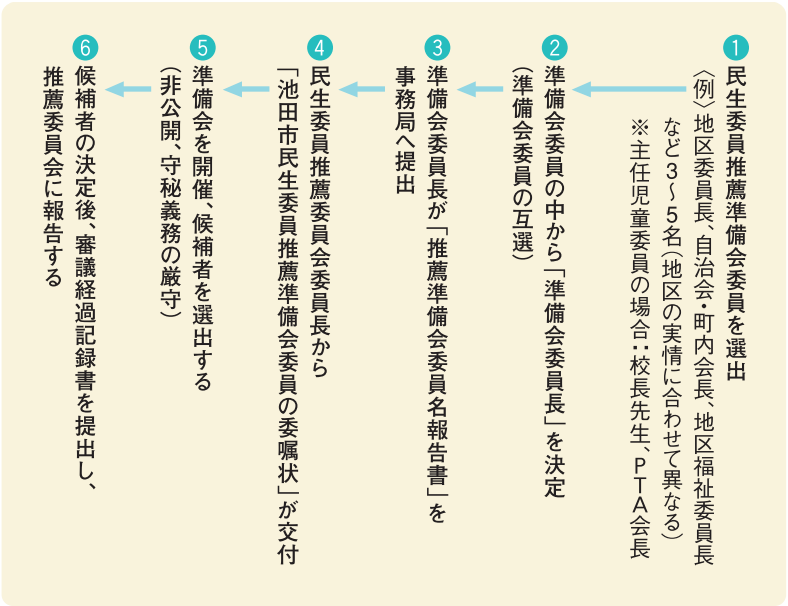


立ち上げるまで  
〜選出過程の透明性を高めるために〜

池田市は、大阪市の北約16キロのところにある都市機能や公共施設が充実したまちとして発展してきている人口約10万4千人の市です。これまで、町内会長や自治会長が民生委員候補者の選出にあたっていました。しかし近年、地区によつては自治会の組織率が4割程度まで減少しており、選出が困難を極めるようになってきました。また、「誰がどういう方法で民生委員を選任しているのか」という一般住民からの問い合わせも多くなってきたことから、選出過程の透明性の確保、民生委員活動のPR強化の必要性を痛感。同民児協では、推薦委員会での選任を補助する機関として「推薦準備会」を設置し、地域の中から幅広く適任者を選出していくことが求められてきていると考えました。

## 民生委員推薦候補者の選出について

実際には次のような手順を経ておこなわれます。



## 推薦準備会の実際の運営と課題について

運営するにあたって、各地区の地区委員長が推薦準備会委員の選出、準備会の日程調整等さまざまな場面で運営を支援しています。その中で、準備会を実際に開催するまでに見えてきた課題としては、「推薦準備会委員の方々に民生

委員について理解を深めてもらうこと、また準備会を立ち上げる理由を理解してもらうこと」という声があがりました。その課題に取り組む中で、自治会に加入していないマンションの管理組合長に準備会委員に就任してもらい、民生委員の候補者を選出するなど、自治会以外にも少しずつですが取り組みが広がっています。また、準備会が開催されても「非公開で公正・公平になるように努力する」など、運営方法についても透明性を高める重要性があげられました。さらに、「任期途中で欠員がなければ、一斉改選時の3年に1度なので、なかなか地域に推薦準備会が定着していかない」という意見も出て、現在の取り組みをどのように地域に根ざしたものにしていくのかという課題も浮き彫りになりました。

また、準備会の取り組み以外にも、「若い人に長い間やってもらい、いろいろな経験をしてほしい」、「社協の地区福祉委員とも協力してやっていきたい」との声もあがりました。そのためには、新任の民生委員を支える地区民児協における委員同士の協力体制や、地区委員会の充実、民生委員の活動量についても今後検討していかなければならないということでした。

池田市民児協では、現在ほとんどの地区で準備会の立ち上げをおこなっており、今年の一斉改選に向けてさらなる取り組みをすすめています。制度が本当に根付いていき、欠員問題の解消を図るためには、推薦準備会の取り組みだけではなく、民生委員活動のPR(地域の中で顔の見える関係作り)、フォローアップ体制(地区委員会での事例検討や委員同士の協力・相談)、活動量の検討(社協の地区福祉委員との協力)など、総合的に取り組んでいくことが必要です。

「地域の中で地域の人が地域の民生委員を選ぶ」というシステムは民生委員のPRや、活動のしやすさにつながる。池田市民児協は取り組み始めたばかりではあるが、他の市町村民児協の参考の1つになれば」と正田会長は話しています。



# 民生委員・児童委員が活動しやすくなるために

## 第1回 ～守口市民児協～



民生委員・児童委員が本当に活動しやすくなるために、各市町村民児協で様々な取り組みが行なわれています。その取り組みを紹介していくためのコーナーを今回からスタートします。

第1回は守口市民児協の定例会に関する取り組みです。会議を短時間かつ内容の濃いものにするため、事前の打ち合わせをしっかりと行うなどの取り組みを進めています。また、活動の負担を軽減するために地区割りを見直し、関係行事に対する民児協の参加協力のあり方を検討するなど、積極的な取り組みをすすめています。

「楽しい民児協『定例会』」  
「一つのファミリーと思つて」

平成19年の一斉改選時に守口市民児協会長を引き受けることになりました。

「こりゃえらいことになったぞ」と頭の中が真っ白になり、一変に混乱してこれから先のことを思うと夜は眠れなくなり、何をするにしても手につかなくなりました。自分の持っている能力以上のことを格好良くやろうと思つてもできるはずもないことは十分承知なので器以上のことをせねばと高望みせず、副会長・会計・市の福祉部総務・事務局や全委員の協力に頼るほかないなと腹をくくったときに少しは気が休まりました。

幸い、守口市民児協には歴代会長が築いてきてくださった、全委員が一堂に会する「定例会」が長年毎月1回(8月を除く)開かれていました。まず、その継続と充実を図ろう、そこで多くの委員さん方と出合つて元気な顔を拝見して何でも話そう、委員相互の情報交換や地区間の連絡の場としてこの「定例会」の機会を活用していただければ、と願いました。

毎回200名近くの出席をいただき、民児協や部会の事業につい

ての検討と承認、委員研修、関連機関・団体との連携や調整、冊子やパンフの配布、大阪府民児協連会長連絡会の状況報告や伝達各種催しへの動員依頼など、毎回「委員総会」のような形です。

「定例会」が始まる前のしばらくの間、会場のあちこちから聞こえるざわめきは実ににぎやかで素晴らしい、熱気にあふれています。そのような開会前の風景を目にして、今では毎月の「定例会」を自分勝手かもしませんが、楽しみながら開催するようになりました。守口市民児協の価値ある財産のひとつとして、伝統あるこの「定例会」は今後も継続していきます。

民生委員・児童委員の担い手が少なく、選任が困難な現況の中で、現委員さん方を中心としたファミリーと思ひ、「委員が活動しやすい環境づくりに向けた検討」の取り組みも進めつつ、今後の守口市民児協の運営に携わりたいと思っています。

守口市民児協

会長 小川勝



## 府民児協連の取り組み — 重点課題の整理 —

平成20年に方面委員制度創設90周年を迎え、次の担い手へ民生委員活動を引き継ぐため、また民生委員制度をめぐる新たな課題をはじめ、民生委員が活動しやすい環境づくりに向けた具体的方策を検討、推進しています。

本検討会は、昨年度より4回開催し、現在重点課題として、次のように具体的検討事項の整理をしています。

- 欠員問題の解消をめざす
  - ◆ 推薦のあり方の改善 (例) 推薦準備会
- 活動の多忙さの解消をめざす (役割・活動の整理)
  - ◆ 関係機関との連携のあり方
  - ◆ 行政関係事務(各種証明事務など)の簡素化
- 組織活動・日常活動の強化をめざす
  - ◆ 定例会の工夫(活動事例検討の導入)
  - ◆ 主任児童委員との連携強化
- フロアアップ体制の充実をめざす
  - ◆ 活動上の悩みや事例について相談できる場づくり
  - ◆ 日常的に先輩委員の助言や体験談を聞ける場づくり
- 活動PRの強化をめざす
  - ◆ 広報手段の拡大(広報紙、ビラ、DVDなど)
- 現代の社会情勢に合った民生委員活動の在り方の整理
  - ◆ 現在の活動が、民生委員・児童委員の役割・原則と大きな乖離がないか
  - ◆ 制度の狭間の要援護者への支援など今後の社会情勢に合わせて、原則を守りながらどう発展させていくのか

このなかで、今年の一斉改選に向け、特に欠員問題の解消に向けて取り組んでいくことになっており、府民児協連全体の課題提起や、意見交換の場を積極的に設けていきたいと考えています。



活動しやすい環境づくりに向けた  
具体的方策の検討事項

## 第78回 全国民生委員 児童委員大会&管外研修

### 災害からの復興と さらなる民生委員活動の推進に向けて

管外研修 平成21年10月28日

#### 新潟県柏崎市民児協の災害時の取り組み

はじめに、新潟県中越沖地震の概要と被害状況、被災後の取り組みについて説明がありました。柏崎市は3年間という短い期間に2度の地震に見舞われ、また水害などの自然災害も過去5年間で相次いで発生しています。その中で、中越沖地震は平成16年7月16日午前10時13分、最大震度6強という規模で発生し、柏崎市は新潟県で最も揺れが激しい地域でした。

災害時要援護者への対応としては、安否確認を行い、在宅高齢者9,007人については、福祉サービスを受けている人は施設の担当者が確認、そのほかの人は、民生委員が訪問することによって、地震発生から5日で確認できました。

さらに、福祉避難所は6か所開設し、延べ13,688人が避難しました。災害被害を少なくするためには地域の防災力の向上が重要ですが、認知症や精神障がい者の方をどのように支援していくのかということが今後の課題としてあげられました。

その後の意見交換では、要援護者への日頃の支援について、「人工透析をしている人には透析日は何曜日なのか、病院はどこかについても日頃のコミュニケーションで確認しておくなど、日頃からのつながりの重要性を再確認しました。

また、要援護者マップについても「実際にまわってみる。また見直しを行うことも必要である」ということで、マップ作成からいかにそのマップを活用できるものにするのかも重要であることが分かりました。

大阪府内でも災害時一人も見逃さない運動は広がりを見せていますが、この交流会で深めた内容を生かして、今後さらに府内各地の取り組みが推進されることが期待されます。

全国民生委員  
児童委員大会

平成21年10月29日～30日

#### 新潟県新潟市の朱鷺メッセにて開催 全国から約4,200名が参加しました！

1日目の式典では、表彰式の後、作家の新井満さんから「いのちについて」千の風に吹かれながら考えたこと」と題した講義がありました。歌の生演奏を取り入れながらの「生きること」について考えさせられる内容で、参加者からは「どんな命にも生きる意味がある、役割がある。それは民生委員活動の根幹を支える考え方である」という声がありました。式典の最後には大会宣言を採択し、活動への思いを新たにしました。

#### ●大会宣言●

- 一、援護を必要とする住民の見守り、相談支援活動を着実に実践します
- 一、住民の誰もが安心して生活できる地域ネットワークづくりを推進します
- 一、高齢者、障がい者、子育て家庭の孤立・孤独をなくすための活動を進めます
- 一、児童、高齢者、障がい者虐待の早期発見・早期対応と犯罪被害から守るための活動に取り組みます
- 一、災害時に要援護者を地域で支え、助け合えるコミュニティづくりを進めます
- 一、基本的人権について理解を深め、個人情報の取り扱いなど常に活動を見直し、住民や関係機関との信頼関係に基づく活動を進めます

2日目の活動交流集会では「災害時一人も見逃さない運動の推進」など15のテーマに分かれ、全国各地の先駆的な活動報告、他府県との活発な意見交換によって、さまざまな課題に対しての取り組みを検討しました。今後、府内各地でさらなる取り組みが広がっていくことが期待されます。

平成22年度  
月番民児協

## 交野市民児協 活動報告

高齢者に注意を  
呼びかけるチラシ

調査書を保管する筒。これを冷蔵庫で保管します



交野市民児協の運営、活動状況を紹介します。

交野市は、大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中間に位置し、人口約8万人、高齢化率20.15%の市です。

豊かな山地に恵まれ、七夕伝説で有名な機物神社や磐船神社、妙見の桜など、歴史ある街として知られています。

### 「災害時一人も見逃さない運動」に全力投球 ～個人情報保護は冷蔵庫に！冷蔵庫は命を救う！～

月番民児協は大正9年に始まり、当時は大阪府内の方面委員が互いの活動について知り、事例検討等を通じ研鑽を図ることを目的に月1回、当番となる方面(地区)を定め開催されました。現在は年1回当番民児協の事業や活動を府内の民生委員が共有する機会として開催されています。

今回は、平成22年度の当番となる交野市民児協の活動について、ご紹介をお願いしました。

交野市民児協では、「災害時一人も見逃さない運動」に取り組んでいます。その取り組みにあたり、災害時に要援護者となる可

能性のある高齢者と日頃から関わる中で、対象者の方が何を求めているかを知ることが重要になります。その為、民生委員のスキル向上を目指し、委員の相談技法として、傾聴研修等を実施しています。

この研修の「誰かに話を聞いてもらうことだけでも悩みは半減されたも同然、そばに寄り添うだけで心の安らぎや支援になる」という考えを基本に、日常の見守り活動や、毎年、ひとり暮らし高齢者の調査活動を行っています。この調査では、訪問して緊急時の連絡先やかかりつけ医等を確認しています。その際、日常の相談を受けることも多く、今後の見守り活動にもつながっています。民児協として、平成19年に災害時対応マニュアルを作成し、さらに、平成21年度には、調査書に災害時の項目を加え、要援護者としての登録や、ひとり暮らし高齢者のマップづくりも行い、万が一、災害が起こった時には、すばやく安否を確認できるようにしています。

また、高齢者福祉部会と地区会が中心となり、調査活動で得た情報を緊急時により効果的に活用するため、ほとんどの家庭の台所にあり、地震でも堅固な冷蔵庫に一定のルールに基づいて調査書を保



調査書の必要性を対象者の方に説明する民生委員

管することを検討しています。今後は、調査書を保管する筒を、民生委員が調査の時に持参し、なぜ、筒に調査書を入れる必要があるのかを説明し、対象者の方々に理解を求めています。緊急時に冷蔵庫に必要情報が入っていることにより、対象者の意思疎通が難しくても、緊急連絡先やかかりつけ医が分かることで、いち早く危険な状態から救うことができます。

現在の対象者はひとり暮らし高齢者のみですが、災害はある日、突然誰にでも起こりうることです。今後は、ひとり暮らし高齢者のみならず、どの家庭でも冷蔵庫に緊急情報を保管することをピーアールしていきたいです。

日常の緊急時、突然起こる災害に備えて、交野市民児協全員で力を合わせて取り組んでいます。





左から南会計、富田副  
会長、宮原副会長、丹  
下会長、保手演副会  
長、田岡副会長

枚方市民児協では、こうした映画大会で地域の親子との交流を深めているだけでなく、地区の子育てサロンの情報などを掲載した「子育てマップ」の作成・配布や、0歳児の親子や妊婦を対象とした子育てサロン「ほんわかルーム ゆりかご」の開設など、児童福祉活動に積極的に取り組んでいます。



## 児童福祉活動に積極的に取り組む

たちとともに歌うなど、児童との交流活動も毎年行っています。こうした手遊びや歌は、日頃から児童福祉部会の委員が子育てサロンや育児教室などで披露しているものだそうです。

上映終了後には参加者から「楽しめました」「来年の作品はなんですか」と声が寄せられ、「無料で最新の映画が観られると喜ばれているようで、子育て中のお母さんたちのリフレッシュにもなっているようです」と田岡副会長はいます。

平成15年に開設した子育てサロン「ゆりかご」では、平成21年度より離乳食の講習会をスタート。宮原副会長によると「離乳食の作り方を知らない若いお母さんが多い」とのことから、栄養士の資格を持つ民生委員が指導役となり、日常のおかずから作る離乳食を紹介しています。参加者からは「普段のおかずから離乳食ができるとは知らなかった」などといった声が寄せられているそうです。

調理中は民生委員が子どもを預かっているため、「出産以来初めてゆっくりできた」との感想が寄せられるなど、母親たちの息抜き場にもなっているといいます。

サロンで出会ったお母さん同士がサークルを立ち上げるなど、「交

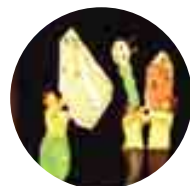


民児協が作成した子育てマップと手遊びなどを掲載した資料集

流の場にもなっており、そうしたサークルには、各校区の民生委員が場所の手配や遊具の貸出など、活動のバックアップも行っています」と南会計。

こうした活動は、民児協の啓発にもつながり、「民生委員は自分たちと関係ない人だと思っていたが、気軽に何でも相談できることがわかった」という声が聞かれるようになったといいます。

「時代のニーズとともに、児童福祉に関する活動が全事業の半分近くに増えてきた。今後は各地区での活動をより充実させたい」と丹下会長。「地域と寄り添う」民生委員・児童委員として積極的に取り組みたいという強い意欲を感じました。



# 民生委員・児童委員さん

●枚方市民生委員児童委員協議会●

## — 映画大会を通して活動をPR —

枚方市民児協では、児童福祉活動の一環として昭和61年より毎年夏に「夏休み児童映画大会」を開催しています。今回、枚方市民児協の丹下会長や役員の皆さんに、映画大会を振り返りながら、その取り組みや意義、そして枚方市民児協が行うさまざまな児童福祉活動について伺いました。

### 枚方の子どものための夏休み恒例行事

「夏休み児童映画大会」は入場無料で、毎回1500〜2200人もの参加者を集めるといふ、枚方市民児協の中でも大きな事業。平成21年は枚方市民会館大ホールにてデイズニー映画「ウォーリー」を上映しました。

枚方市民児協の役員など約80名がスタッフとして参加。映画の選定から、ポスターやチラシなどによる広報活動などを行います。当日は上映2時間前から参加者が並び始めるという人気で、「列や自転車の整理が大変ですね」と富田副会長。事故がないよう、入場を待つ子ども



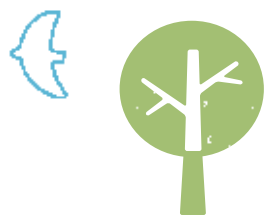
もたちの整理や会場内の警備などに各スタッフを配置しました。

### 民児協の啓発活動や児童との交流も

入場時にはメモ帳や鉛筆セットをプレゼント。「あなたの身近に相談相手がいいます」と民生委員・児童委員の活動をPRするチラシを添え、民児協の啓発活動も展開しています。「こうしたチラシを見て、相談に来てくれた方もいました」と保手演副会長。民児協の活動を市民の皆さんに広くPRする、絶好の機会にもなっているようです。

また、上映前に児童福祉部会の委員が舞台上で登場し、手遊び歌やお絵描き歌を客席の子ども





子育てサロンは  
お母さんたちの  
交流の場

児童虐待等の問題が増加するなど、児童を取り巻く環境の変化を踏まえ、子育ては社会全体で支えていくという考えのもと、地域での子育て支援活動に取り組もうと、大東市民児協でも活動を進めています。平成14年4月からスタートした大東市四条地区を皮切りに、各地で「子育てサロン」が開催されるようになりました。

私の担当する大東地区でも、サロンの名称である「みんな、みんなよつこい」と小さなお子さんがいる家庭に呼びかけ、節分や七夕といった季節行事の体験や絵本の読み聞かせ、手遊びなどを行いました。子ども同士で遊ぶ楽しさを提供するとともに、お母さん方にもお友達を作っていただける場を設定できました。



子どもたちは一緒に遊ぶ楽しさを知ります



## 大東市

### 子育てサロン活動の取り組み

今年で7年目を迎え、10月のサロンでは牛乳パックでレーシングカーを作成。自治会会長さんによる手作りのダンボールで作られた坂道に競って車を走らせている子どもたちの屈託のない笑顔と、笑い声に心が和みました。

親同士の交流や気軽な情報交換の場として、一人でも多くの方にご参加いただけることを願っています。

大東市民児協 大東地区  
民生委員・児童委員

中山紀子



## 民児協だより

### 能勢町

### 地域の方々とのふれあい 「能勢ふれあいフェスタ」

今年12回目の福祉イベント「能勢ふれあいフェスタ」に能勢町民生委員児童委員協議会の地域福祉部会が中心となり参加しました。

この「ふれあいフェスタ」は「みんなで支えあう町づくり」をテーマに能勢町に住む全ての住民が安心して暮らして

民児協のブースは大盛況



すい町づくりをするために、関係機関・団体（7機関・24団体）の協力と参加を得て開催。子どもからお年寄りまでが楽しく集い、ふれあえる場にするにより、高齢者・障がい者問題等「地域福祉」への理解を深め、地域総ぐるみで住みよい福祉の町づくりの推進を図っています。

能勢町民生委員児童委員協議会としては、地区福祉委員会と協力して毎年恒例の「もちつき」をし、しろもち・きなこもち・ぜんざいの模擬店で参加しました。地域福祉部会の委員は、前日からもち米洗い、会場設営等で集まり、当日は全員で「つき役」「手水」「まるめ役」等の役割分担。10時からのイベント開始がされますと、ありがたいことにお客様の列ができ、例年どおりお昼過ぎには完売しました。

また、当日児童虐待防止



全員で役割分担をし、もちつきを行いました



キャンペーンの「オレンジリボン」を配布し、子どもの虐待防止を呼びかけました。

このふれあいフェスタに参加し、民生委員相互の交流が深まるとともに、関係機関・団体の方々とも知り合い、情報交換ができました。

今後このようなイベントを通じて7機関・24団体のネットワークが強化されることが「地域福祉」の充実の一步であると考えています。

能勢町民児協  
地域福祉部会

部長 岩崎昭雄





## 大阪狭山市

### 「狭山池まつり」でPR活動

大阪狭山市民生委員児童委員協議会では、市民に民生委員・児童委員の役割、活動を知っていただくため、年に1度開催される「狭山池まつり」にPR活動を目的に参加しました。

狭山池は、「古事記」「日本書紀」にも記述が見られ

る我が国最古のダム式ため池で近年、市により盛大に「狭山池まつり」が行われています。

当日は民生委員・児童委員の「7つのはたらき」のパネルを作成・展示し、市民にチラシやティッシュペーパーなどを配布。「広げよう地域に根ざした思いやり」のぼりも作り、PR活動に努めました。



「7つのはたらき」のパネル

今後も地域福祉の担い手として、温かくやさしい連鎖を生み出していく努力を大切にしつつ、住民の立場に立って「寄り添う」相談を行っています。また、支援する人たちからニーズを捉え、必要な支援につなぐ取り組みの充実を図れるよう、努力していきます。

大阪狭山市民児協

会長 吉川 啓子

民児協のブースでPR



そのほか年1回、市民向け講演会を開催、平成19年度の「認知症について」と題した講演会では参加者の関心が高く、驚きました。平成20年度は市民向け映画会を開催し、各機関・団体の後援協力を得て、ドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」を上映。「感動した」などの感想が届き、平成21年度も映画会を予定しています。

大阪狭山市民児協では

## 阪南市

### 地域福祉部会の活動について

地域福祉部会では、月1回保健センター事業である離乳食講習会等に来られる方の保育を中心に活動しています。

年1回管外研修も企画しており、この10月には毎日生活するための健康を維持するには水との関係が一番大切であり、水の処理がどのように行なわれているかを知ることが基本であるとの目的から南部水みらいセンター（南大阪湾岸流域下水道）を訪問しました。

近代的な処理施設内で説明を受け、完全に処理された水が、海の幸、また湾内の諸施設を保護していることを学習しました。現在、大阪府が管理しているセンターは12カ所とのことでした。

生活環境を守ってください

離乳食講習会での保育の様子



阪南市民生委員児童委員協議会地域福祉部会活動について紹介させていただきます。

阪南市は大阪府南部の大阪湾沿岸に面した市で、自然が多く昔の面影を残しています。

ることを願いつつセンターを後にしました。

阪南市民児協  
地域福祉部会

副部長 谷口 満



南部水みらいセンターにて

知的障がい児施設の現場から  
見えてくるもの

## 障害児施設から地域へ～余暇支援～

「施設は暮らすところではあるけれど、暮らし続けるところではないはず」という想いからグループホームを整備し始めたことは、前回お話をさせていただきました。しかし、集団生活から「個」の生活への移行は、支援する側が想像していた以上に利用者にとって厳しいものであったという

事実はとても重いものでした。利用者の「寂しいよ」という気持ちに私たちが気付くまで、どれ程つらい想いを持ち続けさせていたのか。今は、笑って許してくれたいますが、当時はきつと心の中で泣いて怒っていたのだと思います。利用者の優しさに感謝です。「個」の生活の中で、自分の生活を大切にするようになるまでには、多くの時間と多くの課題をひとつひとつクリアする勇氣が必要なことを利用者に教えてもらいました。集団を離れてもこれまで以上に、「いっしょにいる」ことが必要だったといえるでしょう。この課題をどう克服するかが「障害児施設から地域へ」の大きなテーマです。

また、それぞれのホームがバックツアーにも参加し、いろいろな人たちとの交流の場を持つこともできました。実施当初は支援する職員の数も多く、あれこれと手を回す場面も見られたのですが、現在は必要最小人数の支援員のみで行くことができます。

自分の生活を大切にすることとは、必要な支援を明確にするということにはなりません。余暇支援を含めて生活全般の支援は、支援者が利用者の希望や意思を把握し計画するものではなく、支援とは利用者が自分の生活を大切にするようになるための側面的な支えであるべきものだと思います。支援者がどのようにして黒子に徹するかが支

今回は利用者の日常生活（余暇支援）について述べさせていた

援の質を表す指標であると思います。

だきます。最初に開設したホームは12年を経過し、それぞれの生活にもかなりのゆとりを感じ取ることが出来ます。ここ数年は年に2回程度、自分たちの希望を盛り込んだツアーを、2泊3日もしくは1泊2日の日程で実施し、北は北海道から南は沖縄まで足を伸ばしています。他のホームも利用者の実情に合わせ1泊2日や日帰りの小旅行を実施できるようになりました。

平成20年度・21年度に開設した4ホームでは、支援学校高等部を卒業し就労した利用者はその給料の中から、作業所等への福祉的就労をした利用者は単独世帯としての生活保護の受給を受けながら、目標を立てて、少しずつやりくりをしながら費用を捻出しています。月々の小遣いは支援員と相談しながら使っています。また移動支援を定期的に利用している利用者もあります。



色々な人と交流  
しながら余暇を  
楽しみます

現行では、福祉サービスを受けるには利用者負担が求められている制度上、自由には利用できていませんが、それでも自分たちの生活を充実させるためにさまざまな工夫を凝らしています。そうしたステップをひとつひとつクリアしながら、着実に生活の向上に取り組んでいます。必要な支援を明確にするための利用者自身の努力に敬服です。

ひとつでも多くの体験を積むために、少しでも自己のスペースを拡大するために、それがひとりとりの生活を豊かにする。そのことを共有して「いっしょに」生活していきたいと思っています。

月の輪学院

月の輪学院

施設長

石井芳明

## 主任児童委員の動き

## 「ブロック別研修会」

全民児連からの「主任児童委員活動ハンドブック」2009年版」の発行を受け、今年度はブロック別の研修会を事業計画に掲げ開催しました。各ブロックの研修内容は次の通りです。

<p>ブロック（開催日・開催地）</p> <p>河北ブロック （7月27日・大東市）</p>	<p>【講演】</p> <p>「発達障がいについて理解を深める」</p>
<p>北摂ブロック （8月21日・豊中市）</p>	<p>【講演】</p> <p>「複雑多様化する福祉課題に 対応した主任児童委員活動の 発展のために」</p> <p>【グループ討議】</p> <p>※講演内容や主任児童委員活動に ついて話し合う</p>
<p>泉州ブロック （9月30日・高石市）</p>	<p>【講演】</p> <p>「要保護児童への支援と 主任児童委員の役割について」</p>
<p>河南ブロック （10月9日・大阪市）</p>	<p>【グループ討議】</p> <p>「主任児童委員としての 虐待事例との関わりについて」</p> <p>【講演】</p> <p>「虐待事例をとおして 主任児童委員の役割を考える」</p>

参加者からは、「グループ討議をすることにより他市の活動内容がわかり参考になった」「このような研修の機会は大切だと思う」という声が寄せられました。

「新任主任児童委員を支える情報交換会」

10月26日、1～2期目までの新任主任児童委員あわせて136名が参加しました。はじめに、全国主任児童委員研修会の報告、その後、豊中市、貝塚市の事例報告がありました。

豊中市では、「こんにちは赤ちゃん事業」から親子とつながり、支援できた事例。貝塚市からは、「小学校との教職員との交流会」によつ

事務局だより

「民生委員・児童委員活動DVD」

いよいよ完成へ!!

民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの取り組みの  
一環として、平成21年度の事業計画に掲げ、DVDの製作に取り  
組みました。このDVDは地域住民・行政、関係機関に民生委  
員・児童委員や民児協活動をよりわかりやすく紹介し、民生委  
員・児童委員の役割や活動の重要性、今後の活動についての理  
解を促進するため、また、民生委員・児童委員にとっても生きた  
教材となることを目的として製作されました。

企画調査部会・広報委員会のメンバーによりDVD製作委員会を発足。その後、5月29日の第1回から1月までに8回の会議で検討を重ね、製作を進めてまいりました。

取材や撮影の協力、写真・ビデオの資料提供などご協力頂き  
 本当にありがとうございました。

順次、民児協へ配付していきますので、是非あらゆる場面で活用してください。またこのDVDは、行政や市町村社協、その他関係機関にも配付する予定です。

て学校とつながり、個別援助活動や健全育成活動に広がっている事例が発表されました。

つづく情報交換会では、現在取り組んでいる活動や活動の中でのやりがいと課題、また課題を解決しながらどのように子どもや子育て家庭を支援すればいいのかについて意見を交換しました。活動の中で感じるやりがいについて「子ども達が学校へ行くようになってうれしかった」との声があり、また複雑な課題を抱える親子の支援に対して、「児童委員や関係機関とともに支援し、一人で抱え込まないようにする」などのアドバイスがありました。参加者からは、「皆さんとても前向きに活動していて、自分も頑張らなければと思った」との声が寄せられました。

